

平成26年度

# 大好評!「わが家のすこやか日記」

泣いたり、笑ったり、時にはおこったりと子育ては日々ドラマの連続です。「わが家のすこやか日記」では、家族のふれあいや子育てに関するエピソードなど、子どもから大人まで様々な世代の方から昨年お寄せいただいた作品のうち、優秀作品10作品を紹介します。

※学年は平成26年度のもので。

## お父さんのにおいは落ち着くで賞

### ぼくのおとうさん

ぼくはおとうさんがだいすきです。おとうさんのおしごとは、やきんがあります。おとうさんがやきんのときは、いっしょにねられないけど、おふとんがおとうさんのにおいなので、おふとんがあるからねられます。ぼくはじぶんのへやがあるけど、ちゅうがくせいになるまでおとうさんといっしょのふとんでねます。

瀬戸内市立国府小学校 第1学年 成本 空月

## 働くお父さんが大好きで賞

### はたらくおとうさん

わたしのおとうさんのしごとは、のうかです。おとうさんは、トマトとか、こまつななどをつくっています。だからまいにちきゅうけいは五分で、あとは、ほとんどあつい中ががんばっています。おとうさんのつくるやさいはおいしいです。それにとてもやさしいです。かぞくの中で一ばんすきなのがおとうさんです。

玉野市立大崎小学校 第2学年 奥野 麻結

## みんなで分けるとおいしいで賞

### わけっこ

わたしはおとうさんとお母さんともうとの四人がぞくです。わたしのかぞくでは、何でもかぞくでわけっこして食べます。はんぶんこにしたり四つにわけたりします。もっとたべたいなあとおもう時もあります。おとうさんとお母さんは「みんなでわけっこして食べるからおいしいんだよ。」と言います。わたしもそうかなっておもいます。

勝央町立勝間田小学校 第2学年 角谷 海藍

## お母さんの握手が元気をくれるで賞

### 毎朝のお約束

毎朝「行ってきます。」と言ってお母さんとあく手をします。曲がり角ではふり返って手をふります。私はうれしい気持ちで、元気に学校に行くことができます。私は、毎日安心して一日をスタートできるように、大きくなってからお母さんとあく手を「行ってきます。」と言っていたいです。

岡山市立宇野小学校 第4学年 向井 美桜

## 心があたたかくなるで賞

### お母さんとぎゅー

お母さんと手をつなぐと、心があたたかくなる。お母さんは手をつなぐたび、「大好きだよ。」と言ってくれる。お母さんの手は大きいから、ぎゅーっとつなぎたいけどつなげない。だからかわりにお母さんがぎゅーっとしてくれる。(ああ、あったかいな)「お母さん大好きだよ。」と言ったらニコッとやさしい顔つきで笑ってくれる。その笑顔は、何とも言えない。私がお母さんになっても、子どもの手を笑顔でぎゅーっとしてあげたいな。

勝央町立勝間田小学校 第5学年 西元 千冬

## カレンダーは私とお母さんの宝物で賞

### お母さんのカレンダー

お母さんは、私が生まれた日から今日までの出来事をカレンダーに書いています。その時の私の表情やしぐさ、言葉のひとつひとつ、お母さんの感じたことまでいねいに書かれています。そして、その文章の最後には、「生まれてくれてありがとう。」「ママはとっても幸せです。」とありました。初めてこのカレンダーを読んだ時、お母さんの愛情が伝わり、感動して泣いてしまいました。将来私も子どもに愛情をしっかりと伝えて育てたいと思いました。

倉敷市立柏島小学校 第6学年 川上 紗加

## お母さんの背中が大きく見えたで賞

### けんかのおかげで

前に、家を出ていった事がある。理由は、けんかだ。今考えてみるとしょうもない事だと思う。でも、まだ小さかった僕には、すごく大きな事だった。その時は、お母さんに対してすごい怒りとかがあった。でもなぜか、怒りとはちがう感情もあった。そんな僕は行く当てもなく歩いていた。心の中では、誰かに来てもらいたい気持ちや、ずっとこのままでもいい気持ちもあった。でもこのままでもいい気持ちはすぐに消えた。お母さんがむかえに来ていたからだ。その時のぼくはすごく泣いていた。もうしわけない気持ちしかなかった。だからすぐあやまった。帰りは後ろを歩いていた、でも、やっぱりお母さんがいてくれて良かったとすごく思った。

瀬戸内市立牛窓中学校 第1学年 三宅 堅士

## お父さんの一言は重みがあるで賞

### 父の一言

僕は今、夢にむかってがんばっている最中です。僕のお父さんは僕の練習に毎日毎日、仕事終わりのヘトヘトな状態でつきあってくれます。そんなお父さんに僕は、「なんで毎日手伝ってくれるん?」とききました。するとお父さんは「おめえの夢がかなえられたら、わしの夢もかなうんじゃ。」といい、僕はお父さんに「お父さんの夢ってなんなん?」ときく。お父さんは、「おめえと剛(弟)が幸せになることじゃ。」僕はその一言をきいて家族を幸せにしなぐちゃと思いました。

瀬戸内市立牛窓中学校 第2学年 川口 堅

## 布おしめは思い出いっぱい得賞

### 布おしめ

末の孫が四年生になった。生まれると同時に勤めを持つ母親にかわって、お守り役となった時おしめは昔ながらの布おしめを使った。母親に言われた。今頃布おしめを外に干している人はいないよー恥ずかしいから、やめてくれ…と。でも私は真白に洗濯をした「おしめ」をほこらしげに、パンパン!! 皺をのぼし、太陽の下に干した。ふんわりと乾いたおしめで、孫は大きくなった。今は倉庫で「おしめ」と書いてある箱の中で眠っている。上の孫はもう二十六才である。もし曾孫が生まれたら、出番があるだろうかと、その日を待ちわびているおばあちゃんである。(補足説明)孫に聞かせてやると、この前倉庫をのぞいた時「おしめ」と書いてあった箱があった。あれのことか。僕が使っていたものなのか…

備前市 寺内 貞子

## お母さんの愛情を感じたで賞

### お母さんのお弁当

私はお母さんによく、お弁当の文句を言う。「冷凍食品が多い。」そう言うと、次の日の朝から、揚げ物を揚げる音が聞こえた。「みんなのお弁当は可愛いのに。」そう言うと、次の日のお弁当の中は、カラフルなカップが並んでいた。それなのに私はよくお弁当を残して帰る。「時間なくて。」嘘をつく。テストの週間。朝五時に起きて勉強を始めると、揚げ物の音が聞こえてきた。毎日、この時間に起きていることを知った。空っぽのお弁当箱を出そうと心の中で誓った。

県立井原高等学校 第2学年 上田 沙織